

9月全学連大会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年 8月5日
No 45

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

8・1 福島での意見聴取会で

フクシマの怒り爆発!

8月1日、政府主催の「エネルギー・環境の選択肢に関する福島県民の意見を聴く会」が、福島市の福島テルサで開催され、野田政権による「事故収束宣言」と大飯原発再稼働に対して福島県民の怒りの声が叩きつけられました。

「反省するべきはあなたたち政府であり東電だ。なのになぜ再稼働なんですか!?!」「15%とか25%とか、そういう数字の問題じゃないでしょう!

労働者が命を削ってやらなきゃならない、そうやって作らなきゃならないエネルギーなんて、おかしいでしょ!」「再稼働で野田首相は『私が責任をとる』と豪語したが、福島で事故で誰が責任をとったのか。原発を廃止することが事故の本当の責任の取り方だ」「(聴取会は)原発再開のアリバイ作りではないか」「命あつての経済であり再稼働はおかしい」「大飯原発の再稼働に至っては、『国民の生活を守るため』



と野田さんは言いました。わたしたち福島県人は、国民ではないのでしょうか!?!」意見聴取会では4時間半に渡って、30人が発言。ほぼすべてが原発反対だ。細野原発担当相が「皆さんと一緒にやれることが何かということ、これからも追求をしたい」と発言すると、参加者から「原発を止めることだよ!」と怒号の嵐。この「フクシマの怒り」と連帯し、野田政権を打倒して原発再稼働を阻止しよう!



8月1日福島での意見聴取会

第73回全学連大会要項

【日時】9月5日(水)～6日(木)

【会場】東京都内

【参加費】1000円(会場代、資料代など)
宿泊費は除く



8・3国会・官邸前行動が大高揚！

8月3日、のべ8万人の労働者民衆が首相官邸前—国会前、そして今回は環境省前を埋めつくしました。原発に対する労働者民衆の怒りはより巨大な炎となって燃え広がっています。国会前ではNAZENも、織田陽介事務局長を先頭に「原子力規制委員会人事撤回！」「田中はやめろ！」「再稼働反対！」の大コールをあげ、闘いぬきました。

信号「国会前」の近くでは、福島集団疎開裁判を闘っている人たちが、この日午後4時半から文科省前で行っていた抗議行動に引き続いて集会を行いました。弁護団長の柳原敏夫弁護士は「昨年6月24日、『子どもたちを年間1ミリシーベルト以下の安全な場所で教育せよ』という裁判を福島地裁に起こしました。しかし、12月16日、裁判所は却下しました。絶対に許せません。仙台高裁に異議申し立てして、まもなく判断が下されます。皆さんの大きな支援で20万人の子どもの命を守ろう」と何度もアピールをめました。

福島の女性は「毎週毎週、福島の今を伝えに来ています。私たちの命と健康が脅かされていることを東京の皆さんはもっと自覚して欲しい。福島県の子どもた



8・3国会前のNAZENと全学連！

ちにすでに健康被害が出ています。甲状腺ガンだけではない。突然死、心筋梗塞、脳梗塞。みんなでつながって助け合って、うそを見破って一緒に進んで欲しい」と呼びかけられました。

午後8時に首相官邸前—国会前行動が終了した後、さらに8時15分から環境省前に数千人が集まり、原子力規制委員会人事案の白紙撤回を求める抗議行動を行いました。女性の発言者は「田中俊一は『100ミリシーベルトまでは健康に影響ない。住民は放射線と折り合いをつけて住んで行くことが重要だ』と言った。そんな人に原子力規制委員会の委員長は任せられない。そんな人に福島未来、日本の未来を託すわけにはいかない」と徹底的に弾劾。集会中にも人びとが環境省のまわりに押し寄せ、9時6分、環境省は人間の鎖で完全に包囲されました。

警察はより警備を強化し歩道さえ通行止めにしたが、そんなことで労働者民衆の怒りと原発反対の声を押しつぶすことは絶対にできない。国会前を解放区にした7・29の闘いがそれを証明しています。

野田弾劾の8・6ヒロシマから、9月全学連大会の歴史的 success へ！



沖縄の学生が作った全学連大会結集を訴えるピラを国会前で配布！

